

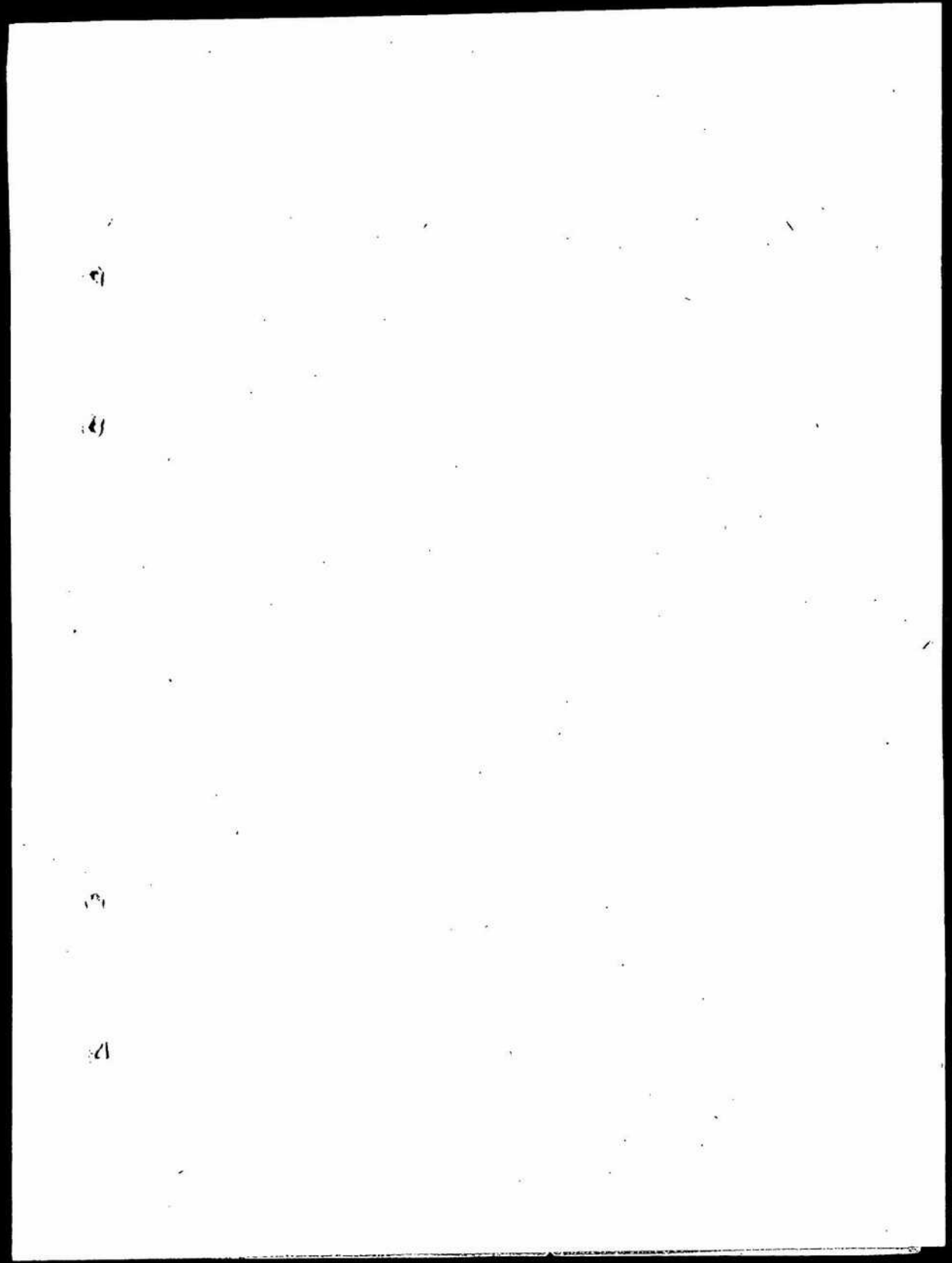
47-43

昭和二十年六月三十日

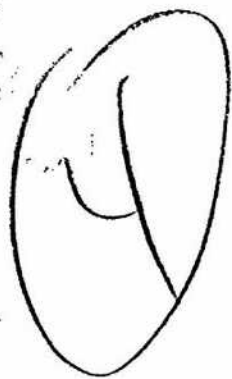
国民義勇戦闘隊法規彙集

国立公文書館	
分類	③ ④
配架番号	3 A
	15
	49-13





49-13



國民義勇戰鬥隊法規彙集

昭和二十年六月三十日

東京都

国立公文書館	
分類	
配架番号	3 A 15 49-13

一、外、(各目表)

凡例

本書ハ、國民義務隊ニ関スル諸法令等ヲ輯録シタルモノナリ。

民生局總務課

目次

一 義勇兵役法 昭和二十年六月二十二日 法律第三十九号 一

二 義勇兵役法施行令 昭和二十年六月二十二日 勅令第三百八十五号 五

三 義勇兵役法施行規則 昭和二十年六月 陸軍海軍省令 一

四 國民義勇隊團隊員ニ関スル陸軍刑法、海軍刑法、陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法ノ適用ニ関スル法律 昭和二十年六月二十二日 法律第四十号 二五

五 國民義勇隊團隊員ニ關スル陸軍刑法、海軍刑法、陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法ノ適用ニ關スル法律 昭和二十年六月二十二日 法律第四十号 二五

六 國民義勇隊團隊員服裝及給與令 昭和二十年六月二十二日 勅令第三百八十六号 三八

七 國民義勇隊團隊員給與等規則 昭和二十年六月二十二日 陸軍海軍省令第五号 四五

八 國民義勇隊團隊員令 昭和二十年六月二十四日 陸軍海軍省令第一号 五三

十 内 (目次)

九 國民義勇隊團隊ノ禮式、獎罰、服裝ニ関スル說明 昭和二十年六月二十五日 陸軍省兵務課 六三

一〇 國民義勇隊團隊員ニ支給スル手当令ニ對シ分類所得税免除ニ関スル件 陸軍一版ノ通牒 昭和二十年六月二十三日 陸軍省兵務課第一三六九号 六七

附 録

一 對空防敵團 (卷 四) 六七

二 素人天孫判斷 (素家ニ關スル地方的古考一例) 六七



義勇兵役法
義勇兵役法施行令
義勇兵役法施行規則

朕ハ曠古ノ難局ニ際會シ忠良ナル臣民ガ勇奮挺身皇上ヲ防衛シテ國威ヲ
發揚セムトスルヲ嘉シ帝國議會ノ協贊ヲ經タル義勇兵役法ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

昭和二十年六月二十二日

閣 係 國 務 大 臣

法律第三十九號

義 勇 兵 役 法

第一條 大東亞戰爭ニ際シ帝國臣民ハ兵役法ノ定ムル所ニ依ルノ外本法ノ
定ムル所ニ依リ兵役ニ服ス
本法ニ依ル兵役ハ之ヲ義勇兵役ト稱ス



本法ハ兵役法ノ適用ヲ妨グルコトナシ

第二條 義勇兵役ハ男子ニ在リテハ年齢十五歳ニ達スル年ノ一月一日ヨリ
年齢六十歳ニ達スル年ノ十二月三十一日迄ノ者（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ
除ク）女子ニ在リテハ年齢十七歳ニ達スル年ノ一月一日ヨリ年齢四十年
ニ達スル年ノ十二月三十一日迄ノ者ニ服ス
前項ニ規定スル服役ノ期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ必要ニ應ジテ之ヲ變更
スルコトヲ得

第三條 前條ニ掲グル者ヲ除クノ外義勇兵役ニ服スルコトヲ志願スル者ハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ義勇兵ニ採用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ義勇兵ノ服役ニ関シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四條

六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ義勇兵役ニ服ス
ルコトヲ得ズ但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル
者ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ
第五條 義勇兵ハ必要ニ應ジ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ召集シ國民義勇隊

團隊ニ編入ス

本法ニ依ル召集ハ之ヲ義勇召集ト称ス

第六條 義勇兵役ニ関シ必要ナル調査及届出ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依
ル

第七條 義勇召集ヲ免ルル為ニ進セシ若ハ潜匿シ又ハ身体ヲ毀傷シ若ハ疾病
ヲ作為シ其ノ他詐偽ノ行為ヲ為シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
故ナク義勇召集ノ期限ニ後レタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第八條 前條ノ規定ハ何人ヲ問ハズ帝國外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニモ
亦之ヲ適用ス

第九條 國家總動員法第四條但書中兵役法トアルハ義勇兵役法ヲ含ムモノ
トス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二、外

朕義勇兵役法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和二十年六月二十二日

内閣	海軍	陸軍	内務
總理大臣	大臣	大臣	大臣

勅令第三百八十五號
義勇兵役法施行令

第一章 總則

第一條 義勇兵役法第二條第一項ノ規定ニ依リ義勇兵役ニ服スル男子ヨリ



除外スル者ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 現役ニ在ル者（待命、休職又ハ停職中ノ武官、帰休中ノ海軍下士官

並ニ未入営兵又帰休兵ヲ除ク）

二 補充兵役、徵備役又ハ國民兵役ニ在リテ召集中ノ者又ハ志願ニ依リ
部隊ニ編入セラレ召集中ノ者ト同一ノ身分取扱ヲ受ケ居ル者

三 陸海軍ノ学生生徒トシテ兵籍ニ編入中ノ者（陸海軍ノ依託学生生徒、
陸軍隊備生徒及海軍隊備員候補者ニ在リテハ陸海軍部内ニ於テ教育中
ノ者ニ限ル）

外ニ條 義勇兵役法第四條但書ノ規定ニ依リ義勇兵役ニ服スルノ資格ヲ取
得スル者ハ六年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ
其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル者ニ就キ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ
定ムル所ニ依リ陸海軍ヲ經テ之ヲ指定ス

第三條 義勇兵役法第三條第一項ノ規定ニ依ル義勇兵ノ採用ニ関シテハ陸
軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ定ム

二ノ内

第二章 服役

第四條 義勇召集ヲ令セラレタル者召集ノ期日ニ於テ義勇兵役法第二條第
一項ニ規定スル服役期間ヲ過グルニ至ルベキトキハ義勇召集解除ノ命ヲ
ル迄其ノ服役期間ヲ延長ス國民義務隊員義勇召集中ニ於テ服役期間
ヲ過グルニ至ルベキトキ亦同シ

第五條 前條ニ定ムルモノヲ除ク、外義勇兵役法第二條第二項ノ規定ニ依
ル服役期間ノ変更ニ関シテハ主務大臣之ヲ定ム

第六條 義勇兵役法第三條第一項ノ規定ニ依リ義勇兵ニ採用セラレタル者
ハ服役期間ハ採用ノ日ヨリ起算シ一年トス但シ引續キ服役ヲ志願スル者
ニ對シテハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ一年ヲ一期トシ數次再服役ヲ許可
スルコトヲ得

第三章 召集

第七條 義勇召集ハ本人ノ在留地（居留地）所管ノ縣區司令官又ハ陸軍兵
事部長之ヲ掌ル但シ工場、事業場、学校、官衙其ノ地ノ施設ニ屬スル者ニ

付陸軍大臣、船舶、乗組員ニ付海軍大臣特ニ義勇召集ヲ掌ルベキ者ヲ指
定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 義勇兵ニ對シテハ編入セラルベキ國民義勇隊團長、國民義勇隊
團長ノ職員ニ充テラルベキ者ニ在リテハ其ノ職名其ノ他必要ナル事項ヲ
隊メ通知ス

第九條 義勇召集ニ因スル事務ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ地方長
官及市町村長並ニ第七條四書ニ規定スル施設ノ長其ノ他必要ト認ムル者
ニ對シ之ヲ補助ヲ命ジ又ハ之ヲ委嘱スルコトヲ得

第十條 義勇召集ハ國民義勇隊團長編成下令ヲ以テ之ヲ実施シ義勇召集ノ
解除ハ國民義勇隊團長編成解除ヲ以テ之ヲ実施ス但シ必要アルトキハ之
ニ依ラザルコトヲ得

第十一條 義勇召集ハ主務大臣ノ定ムル方法ヲ以テ之ヲ本人ニ通告ス
第十二條 義勇兵疾病其ノ他身体若ハ精神ノ異常ニ因リ義勇召集ニ應ヘザ
ルトキ又ハ避ノベカラザル事故ニ因リ義勇召集ニ應ジ難キトキハ主務大

臣ノ定ムル所ニ依リ義勇召集ヲ免除又ハ解除ス

第十三條 地方長官又ハ市町村長ハ義勇召集ノ準備又ハ実施ニ関シ主務大
臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル協力ヲ為シ且縣區司令官、陸軍兵事部長
又ハ第七條四書ニ規定スル軍官憲ヨリ臨時要求ヲ受ケタルトキハ之ニ應
ジ又ハ自ら義勇召集ヲ容易ナラシムルノ措置ヲ為スベシ

第十四條 主務大臣ハ朝鮮、台灣、閩東州、南洋群島、滿洲國、支那、香
港、澳門、印度支那、タイ、ビルマ、フィリピン、マライ、コス
マトラ、ジャワ、ボルネオ、又ハ主務大臣ノ指定スル右領地ニ在

留スル義勇兵ニ付行フベキ義勇召集ニ関シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
第十五條 兵役法施行令第百三十三條迄ニ第百四十三條第一項及第二項ノ
規定ハ義勇召集事務ニ付之ヲ準用ス

第十六條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外義勇召集ニ関シは要ナル事項ハ主
務大臣之ヲ定ム

第四章 雜則

第十七條 本令中主務大臣トアルハ義勇召集ヲ令セラルル場合ニ於テ本人ノ屬スル國民義勇隊所屬ノ所屬區分ニ從ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ実施ス

四ノ外

陸軍省令 鄂

義勇兵役法施行規則左ノ通定ス

昭和二十年六月 日

陸軍大臣
海軍大臣

義勇兵役法施行規則

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ法ト称スルハ義勇兵役法ヲ令ト称スルハ義勇兵役法施行令ヲ指ス

第二條 本令中聯隊區司令官ニ因スル規定ハ陸軍兵事部長ニ之ヲ適用ス

第三條 本令中町村長ニ關スル規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外内地ニ在リテハ町村長ニ準ズベキ者ニ朝鮮、台灣、関東州、南洋群島及滿洲國、ハニ在リテハ邑面長、警察署長（朝鮮ニ於ケル警察署長ヲ除ク）、廳長、

郎長、支隊長、支憲ノ出張所長々大使館兵事員ニ之ヲ適用ス

第四條 本令中市長ニ関スル規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外東京府ノ
區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、横浜市、神戸市及京政府
ニ在リテハ區長ニ、朝鮮（京城府ヲ除ク）ニ在リテハ府尹ニ之ヲ適用ス

第二章 志願ニ依リ義勇兵役ニ服スル者ノ取扱

第五條 法第三條第一項ノ規定ニ依リ義勇兵役ニ服スルコトヲ志願スル者
ニ在リテハ第十條ノ規定ニ依ル義勇召集担任者ニ願出デ、法第四條但書
ノ規定ニ該当スル者ニ在リテハ願書（附錄第一様式）ヲ現住地ノ市町村
長ヲ經テ現住地所管ノ縣區司令官（國民義勇隊團長或下令後ニ在リ
テハ義勇隊團長トス本章中以下同シ）ニ差出スベシ

第六條 市町村長ハ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ其書澄印ヲ為シ刑ノ執行
ニ因スル事項、本人ノ家庭ノ状況等ニ因スル事項ヲ記入シ縣區司令官ニ
差出スベシ

義勇召集担任者又ハ縣區司令官前條ノ願書又ハ願書ヲ受ケタルトキハ

四ノ内

之ヲ審査シ義勇兵役ニ適スルト認ムル者ニシテ法第三條ノ規定ニ該当ス
ル者ニ付テハ義勇召集担任者ニ之ヲ義勇兵選名簿（附錄第二様式）ニ記入
ノ上其ノ旨本人ニ通知シ法第四條但書ノ規定ニ該当スル者ニ付テハ縣隊
區司令官市町村長ヲ經テ其ノ旨本人ニ通知スベシ

第七條 法第四條ノ規定ニ該当スル者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ關係ノ
義勇召集担任者ニ届出ツベシ

義勇召集担任者前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ義勇兵選名簿ニ記入シ其ノ
旨本人ニ通知スベシ

第八條 志願ニ依リ義勇兵役ニ服スル者令第五條ニ掲グル期間ヲ過ギタル
トキハ別命ナク義勇兵役ヲ免ゼラレタルモノトシ義勇召集担任者ハ義勇
兵選名簿中ヨリ之ヲ削除スベシ

第九條 志願ニ依リ義勇兵役ニ服スル者再服役ヲ志願セントスルトキハ第
五條前段ニ準シ願出ツベシ

第十條 法第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 義勇召集

第一款 通則

第十條 義勇召集ノ準備及実施ノ為聯隊區司令官ハ軍管區司令官ノ定ムル所ニ依リ其ノ所管地域ニ在ル國民義勇隊員（海道、通信、航空、放送及船舶関係ヲ除ク）ニシテ國民義勇隊員ト為ルベキ者ヲ指定シテ當該隊員タル義勇兵ニ對スル義勇召集ノ事務ヲ担任セシムルコトヲ得之ヲ義勇召集担任者ト称ス

參謀總長、海運總監又ハ船舶司令官ノ指定スル將校ハ鐵道、通信、放送及航空從事員又ハ船舶乘組員（旅備船員ヲ含ム）ノ義勇召集ヲ掌ルモノトシ前項ニ準ジ義勇召集担任者ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 聯隊區司令官（參謀總長、海運總監又ハ船舶司令官ノ指定スル將校ヲ含ム本章中以下同シ）前條ノ規定ニ依リ義勇召集担任者ヲ指定セルトキハ之ヲ關係者ニ通知スベシ

第十二條 義勇召集担任者ハ聯隊區司令官ノ指定スル地域又ハ聯隊区内ニ在

ル義勇兵ニ付義勇兵連名簿ヲ編製シ自ラ之ヲ保管スベシ但シ第二十二條ノ規定ニ依リ義勇召集ヲ免除シラルベキ者ニ付テハ義勇兵連名簿ニ記載セザルモノトス

第十三條 軍管區司令官、師管區司令官、聯隊區司令官ハ第十條指定ノ地域又ハ聯隊区内ニ在ル官公署、學校、工場及事業場ノ長又ハ公共團體ノ長ニ對シ義勇召集実施上必要ナル事項ニ付調査又ハ要求ヲ為スコトヲ得

第二款 召集準備

第十四條 軍管區司令官、參謀總長、海運總監又ハ船舶司令官ハ各地域又ハ聯隊區ニ編成スベキ國民義勇隊團隊ノ要員ノ召集ニ関シ必要ナル事項ニ付順序ヲ經テ聯隊區司令官ニ之ヲ達ス

聯隊區司令官前項ノ達ヲ受ケタルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ義勇召集担任者ニ對シ義勇召集ニ関シ必要ナル事項ヲ達ス

第十五條 義勇召集担任者前條第二項ノ達ヲ受ケタル時ハ義勇兵連名簿ニ依リ所要ノ人員ヲ選定シ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ本人ニ通知スベシ

前項ノ面達ヲ受ケタル者ハ之ヲ義務召集待命者トス

第十六條 義務召集待命者左ノ各節ノ一二該当スルトキハ義務召集担任者

ニ其ノ旨届出ツベシ

一 陸海軍軍人又ハ陸海軍學生生徒トシテ部隊ニ編入セラレタルトキ

ニ 第二十二條第一項各節ノ一二該当スルニ至リタルトキ

ニ 離職、解職、解任、轉属、徴用又ハ叙用解除等ニ依リ聯隊區司令官

ノ指定スル地域又ハ概況ヲ離ルルトキ

四 其ノ他軍管區司令官ニ於テは要ト認メタル場合

義務召集待命者前項第一、第二節及第四節ニ該当セザルニ至リタル時又ハ

第三節ニ該当シ新ナル地域若ハ職域ニ到着若ハ就職セル時ハ前項ニ準ジ

届出ツベシ

第十七條 義務召集担任者前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ正當ト

認ムルトキハ其ノ待命ヲ解除シ又ハ新ニ義務召集待命者ト為スノ處置ヲ

三ノ内

謹シテ應召ニ因シは要トル指示ヲ為スベシ

第三款 召集実施

第十八條 義務召集ノ実施ハ聯隊區司令官ノ定ムル所ニ依リ便宜ノ方法ヲ

以テ義務召集担任者ヲ經テ之ヲ本人ニ届達ス

第十九條 義務召集待命者前條ノ通達アリタルトキハ速ニ義務召集担任者

ノ指定スル場所ニ至リ所屬ノ國民義務隊團隊ノ隊長ニ届出ツベシ

第二十條 義務召集ニ應ズベキ有事故ノ為義務召集ニ應ジ難キ時又ハ指定

ノ日時ニ遅延シタル時ハ聯隊區司令官ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ國民義務

隊團隊ノ隊長ニ届出ツベシ

第四款 召集解除、免除又ハ猶豫

第二十一條 義務召集ノ解除ハ國民義務隊團隊ノ指揮區分ニ從ヒ軍管區司

令官、參謀總長、海軍總監又ハ船舶司令官ノ定ムル所ニ依リ義務隊團隊

長以上ノ長之ヲ行フ

第二十二條 左ノ各都ノ一ニ該当スル者ハ当該期間内義務召集ヲ免除シ義務召集待命者ト為スコトナシ

一 疾病共ノ他身外又ハ精神ノ異常ニ因リ義務召集ニ應ジ難キ者及其ノ看護又ハ附添ノ為ニ要ト認ムル者

二 官公署、学校、工場、事業場等ノ職員等ニシテ軍管區司令官ノ定ムル所ニ依リ職務區司令官ニ要ト認ムル者

三 法令ニ依リ拘禁中ノ者

四 学龄以下ノ幼児ノ母親ニシテ必要ト認ムル者

五 妊婦、産婦及其ノ看護又ハ附添ノ為ニ要ト認ムル者

前項ノ各都ノ一ニ該当スルニ至リタル者ハ此ニ其ノ有義務召集担任者ニ届出ツベシ義務召集ヲ免除セラレタル者前項各都ノ一ニ該当セザルニ至リタル時亦同ジ

第二十三條 義務召集ニ應ズベキ者左ノ各都ノ一ニ該当スルトキハ必要ノ期間内義務召集担任者ニ於テ召集ヲ解除スルコトヲ得

六ノ外

一 本人疾病共ノ他身体又ハ精神ノ異常ヲ生ジタル場合

二 家族ノ死亡疾病等ノ為ニ始末又ハ荷喪ノ為ニ要アル場合

三 災害被害共ノ他天災地災等ニ際合シ己ムヲ得ザル場合

四 官公吏又ハ法令ニ定ムル職員等ニシテ職務遂行上必要アル場合

第二十四條 毎年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ間ニ法律ニ依リ第一項ノ規定ニ該当スルニ至ルベキ者ハ前年十二月三十一日迄ニ氏名及生年月日ヲ其ノ所属ノ國民義務隊員ノ義務召集担任者トシテ義務召集担任者(前

届ノ國民義務隊員ノ義務召集担任者トシテ義務召集担任者(前届ノ國民義務隊員ノ義務召集担任者トシテ義務召集担任者(前届ノ國民義務隊員ノ義務召集担任者トシテ義務召集担任者(前

第二十五條 義務召集ニ因スル届出又ハ届出ハ本令中書面ヲ以テ為ス如ク規定セルモノノ外懸テ口頭ヲ為スモノトス

時宜ニ依リ書面ヲ以テ為ス如ク規定セル場合ト雖モ口頭ヲ以テ為スコト



ラ得此ノ場合ニ於テ願出人又ハ届出人ハ当該願届ヲ為スベキ者ニ對シ書
面ヲ以テ為ス場合ノ願書又ハ届出ニ記載スベキ事項ヲ限定スルコトヲ得
願出又ハ届出ヲ受理ズベキ者ハ前項ノ添送ヲ兼記シ願出又ハ届出ノ年月
日ヲ記載シ願出人又ハ届出人ニ渡シ開キ且之ヲシテ其ノ書面ニ署名捺
印セシムベシ

第二十六條 兵勇兵役ニ関スル各種ノ名簿其ノ他書類ノ調製ニ當リ氏名同
一ナル者アルトキハ其ノ取扱ニ関シ錯誤ヲ生ゼザル如ク注意ノ増置ヲ為
スベシ

第二十七條 本令ニ於テ願出又ハ届出ヲ為スベキ者ヲ本人ト爲シタル場合
ニ於テハ本人届出ヲ為スコト能ハザルトキハ戸主ニ之ヲ為スベシ
但シ戸主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戸主ノ法定代理人、戸主若ハ
戸主ノ法定代理人未だ決定セザルトキ又ハ遊クベカラザル事故アルトキ
ハ家族中家事ヲ担当スル者ニ之ヲ為スベシ届出ヲ為スベキ者ヲ戸主ト爲シ
タル場合亦之ニ非ズ

六、内

第五章 罰則

第二十八條 正当ノ事由ナクシテ第十六條、第二十二條及第二十四條ニ規
定スル届出ヲ為サザル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ材料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令公布ノ際現ニ迭第ニ條第一項ノ規定ニ該當スル者ハ本令公布ノ日ヨリ
三十日以内ニ第ニ十四條ノ規定ニ非シ届出ヲ為スベシ
正当ノ事由ナクシテ前項ノ届出ヲ為サザル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留
若ハ材料ニ處ス

因表第一様式

義勇兵役服役證

義勇兵役法施行令第ニ條ノ規定ニ依リ義勇兵役ニ服シ度候同御許可
相成度願出候也

年 月 日

本 籍 地 何 々
現 住 地 何 々

本 人 氏 名 印

何々縣隊區司令官殿
(何々義勇隊團隊長殿)

(用紙適宜)

附錄第二樣式

(前紙面宜)

義勇兵連名簿 編製部政

氏名	戶主	本籍地	居住地	同	上	役種	檢察年	兵種	官等級	摘要

國民義勇戰鬥隊員ニ関スル陸軍刑法 海軍刑法 陸軍
 軍法會議法及海軍軍法會議法ノ適用ニ関スル法律

法律第四十號

(昭和二十年六月二十二日
昭和二十年六月二十三日官報登載)

國民義務隊團員ニ関スル陸軍刑法、海軍刑法、陸軍軍法、
會議法及海軍軍法會議法ノ適用ニ関スル法律

- 第一條 國民義務隊團員ハ其ノ属スル國民義務隊團員ノ所屬區分ニ從ヒ
陸軍刑法條々ノ條第二節又ハ海軍刑法第八條第一節ニ據リテ有做ス
- 第二條 前條ニ規定スル者ニ因シ陸軍刑法及陸軍軍法會議法又ハ海軍刑法
及海軍軍法會議法ヲ適用スル場合ニ於ケル特例ハ第三條乃至第十條ノ定
ムル所ニ依ル
- 第三條 陸軍刑法第六十六條第二項又ハ海軍刑法第十二條第二項ノ規定ハ國
民義務隊團員ニ付テハ之ヲ適用セズ
- 第四條 國民義務隊團員ニシテ陸軍刑法ノ司令官又ハ海軍刑法ノ指揮官
タルハ國民義務隊團員ノ職員ニシテ國民義務隊團員ノ司令官ニ任シ又ハ之
ヲ指揮スルモノニ依ル

第五條 陸軍刑法ノ罪（同法第二條ニ掲クル罪ヲ除ク）又ハ海軍刑法ノ罪

（同法第二條ニ掲グル罪ヲ除ク）ヲ犯シタル國民義勇隊員ニ對シテハ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六條 國民義勇隊員ニ對シ陸軍刑法第七十三條及第七十六條又ハ海軍刑法第七十三條及第七十四條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ此等ノ規定中三日トアルハ六日トシ六日トアルハ十二日トス

第七條 國民義勇隊員ニ對スル被告事件ニ付テハ陸軍軍法會議法第四十四條、第四十九條ノ二、第六十三條及第七十條又ハ海軍軍法會議法第四十四條、第五十條、第六十三條及第七十條ノ規定ニ依ルノ外陸軍又ハ

海軍、常設軍法會議（高等軍法會議及海軍ノ東京軍法會議ヲ除ク）及此等軍法會議ノ長官ハ当該軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ作戰地或ハ管轄地或ハ守備地或又ハ艦隊ノ警備區域内ニ在ル高等文官ニシテ判事又ハ陸軍或ハ海軍ノ資格ヲ有スルモノヲシテ法務官ニ代リ裁判官、檢察官又ハ檢察官ノ職務ヲ行ハシメ又ハ此等ノ地域内ニ在ル判任文官ヲシテ判事ノ職務

七ノ内

ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ裁判官、檢察官若ハ檢察官又ハ判事ノ職務ヲ行フ者ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ所管ノ大臣ト協議シテ之ヲ指定ス

第八條 國民義勇隊員ニ對スル被告事件ノ審判ニ付テハ裁判官中判士一人ヲ決シ法務官一人ヲ増スコトヲ得

第九條 判士一人及法務官二人ヲ以テ裁判官ト為ス場合ヲ除クノ外國民義勇隊員ニ對スル被告事件ニ付テハ國民義勇隊員ノ職員中中隊ニ準スル隊以上ノ隊ノ隊長又ハ副隊長タル者ヲシテ判士ノ中一人ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

又若人國民義勇隊員ノ職員タル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ裁判官ノ職務ヲ行フ者ハ被告ノヨリ下位ノ職ニ在ル者タルコトヲ得ス

第十條 前條ニ規定スル隊長ハ其ノ部下ニ屬スル者ノ犯罪ニ付陸軍司法警察

第十條 前條ニ規定スル隊長ハ其ノ部下ニ屬スル者ノ犯罪ニ付陸軍司法警察

衆官又ハ海軍司法警察官ノ職務ヲ行フ
附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國民義勇戰鬥隊統率令

朕國民義勇戰鬥隊統率令ヲ制定シ之ガ施行ヲ命ズ

御名 御璽

昭和二十年六月二十三日

海軍大臣 米内光政
陸軍大臣 阿南惟幾

軍令第二號

國民義勇戰鬥隊統率令

第一條 義勇兵技法ノ適用ヲ受クル者ヲ以テ編成スル部隊ノ編制・隸屬・
職務・懲罰・禮式等其ノ統率ニ關シは要ナル事項ハ別ニ定ムルモノトシテ
本令ノ定ムル所ニ依ル

本令ニ於テハ以下前項ノ部隊ヲ総稱スル場合國民義勇戰鬥隊ト稱ス
第一條 義勇兵技法ノ適用ヲ受クル者ヲ以テ各地方ニ聯合義勇戰鬥隊ヲ編



戊ス

聯合義勇隊團隊ハ本部及若干ノ義勇隊義勇隊團隊ハ本部及若干ノ義勇隊團
義勇隊團隊ハ若干ノ義勇隊團隊ハ若干ノ義勇隊團隊ハ若干ノ義勇隊團
義勇隊團隊ハ若干ノ義勇隊團隊ハ若干ノ義勇隊團隊ハ若干ノ義勇隊團

第三條 前條ノ外特ニ各鉄道局（各通信局）及之ニ準ズル檢閲局ニ特ニ其
ノ規模ノ大ナル軍需品生産会社其ノ他陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル職
此等ニ前條ノ要領ヲ準用シ國民義勇隊團隊ヲ編成ス

第四條 國民義勇隊團隊ハ各區分毎ニ所在地名又ハ職成名等ヲ冠称スルモ
ノトス

第五條 國民義勇隊團隊ニ左ノ職員ヲ置ク

鉄道義勇隊團司令部

鉄道義勇隊團司令

鉄道義勇隊團副司令

鉄道義勇隊團司令補

若干

狀勢急迫セル場合ニ應ズル國民戰團組織ニ關スル件

（昭和二〇、四、一三）
閣議決定

一 億皆兵ニ徹シ其ノ總力ヲ結集シテ敵撃滅ニ邁進スル爲狀勢急迫セル場合國民義勇隊ハ左ニ準據シ之
ヲ戰團組織ニ轉移セシム

一 狀勢急迫セバ戰場トナルベキ地域ノ國民義勇隊ハ軍ノ指揮下ニ入り夫々郷土ヲ核心トシ防衛、
戰團等ニ任ズル戰團隊（假稱）ニ轉移スルモノトシ之ガ發動ハ軍管區司令官、鎮守府司令長官、警
備府司令長官ノ命令ニ依ル

右ノ爲兵役法ニ規定スル者以外ノ帝國臣民（概テ年齢十五歳以上五十五歳以下ノ男子及年齢十七
歳以上四十歳以下ノ女子ト豫定シ學齡以下ノ子女ヲ有スル母親等不適格者ヲ除ク）モ新タナル兵
役義務ニ依リ「兵」トシテ動員シ統帥權下ニ服役セシメ得ル如ク必要ナル法的措置ヲ講ズ

二 戰團組織ト國民義勇隊組織トハ表裏一體タルモノトス
地方長官ハ軍管區司令官、鎮守府司令長官、警備府司令長官ノ指示スル所ニ基キ義勇隊組織ニ付
戰團隊轉移ヘノ準備態勢ヲ整備スルモノトシ右軍事訓練ハ軍管區司令官、鎮守府司令長官、警備

府司令長官ノ担任トス

備考

- (一) 在郷軍人防衛隊ハ之ヲ發展解消スルモ在郷軍人ハ戰團隊訓練指導ニ當ラシムルモノトス
- (二) 國民義勇隊ノ幹部タル在郷軍人ノ一部ハ戰團隊トナリタル場合ニ於テモ軍ニ於テ個別ニ召集スルコトナク依然戰團隊幹部トシテ殘ス如ク別途措置スルモノトス
- (三) 國民義勇隊員中戰團組織ニ編入セラレザル者ノ本場合ニ於ケル組織等ニ付テハ各地方長官ニ於テ別途定ムルモノトス

國民義勇隊ノ組織運營指導ニ關スル件

(昭和二〇、四、二七) 閣議決定

- 一 國民義勇隊ノ組織運營指導ニ關シテハ從前ノ閣議決定ニ依ルト共ニ特ニ左ノ諸點ニ留意スルモノトス
シメ共ノ民意ノ發動トシテノ活動タラシムル様指導育成スルヲ主眼トスルモノトス
- 二 國民義勇隊ハ隊員ヲシテ各々其ノ職任ヲ完遂セシメツツ夫々ノ郷土ヲ核心トシ生産防衛ノ一體的強化ニ任ズルモノトシ特ニ當面ノ任務ハ飽ク迄モ軍需、食糧ノ増産等戦力ノ充實ニ邁進スルコトヲ重視ス
狀勢急迫シ戰團隊ニ轉移シタル後ニ於テハ主トシテ作戰ノ要望スル生産、輸送、築城、防空、復舊、救護等兵站的業務ニ服スルヲ主眼トシ狀況ニ依リ戰團任務ニ服シ以テ郷土自衛ヲ完フスルモノトス
國民義勇隊ノ出動、訓練等ノ運營ハ右ノ趣旨ニ從ヒ實施スルモノトス
- 三 國民義勇隊ノ地域組織ニ當リテハ既存ノ職能組織ノ機能又ハ特質ヲ國民義勇隊ノ目的達成ノため最高度ニ發揮セシムル如ク市區町村ノ基盤組織ニ付地方ノ實情ニ應ジ特別ノ措置ヲ講ズルモノトス
- 四 國民義勇隊ノ組織、編成等ニ關シテハ豫メ其ノ戰團隊轉移ノ場合ノ事情ヲ篤ク考慮ニ入レ關係軍

機關ト密ニ連繫シテ措置スルコトトシ特ニ左ノ點ニ留意スルモノトス

(一) 國民義勇隊ノ指揮者其ノ他ノ幹部ハ當該國民義勇隊ガ戰鬪隊ニ轉移シタル場合原則トシテ其ノ儘戰鬪隊ノ指揮者其ノ他ノ幹部トナルベキモノニ付之ガ選任ニ當ツテハ眞ニ先頭ニ立ツテ隊員ヲ率キ之ヲシテ俱ニ欣然死地ニ就カシメ得ル與望ト統率力アル人物ヲ起用スルコト

(二) 右ノ場合地位、身分、職業、年齢ノ如何ニ拘ラズ廣ク各方面ニ人材ヲ求メ起用スルコトトシ、尙在郷軍人ヨリ選任スル場合其ノ地位ハ必ズシモ軍人トシテノ階級ニ拘ラザルコト

(三) 國民義勇隊ニハ通常副隊長ヲ置キ適格者ヲ之ニ起用シ必要ニ應ジ隊長ニ代リテ隊ノ指揮ニ當ラシムルコト

指揮者其ノ他ノ幹部タルモノニ付テハ兵農工一體ノ趣旨ニ依ル教育訓練ノ方途ヲ講ズルモノトス
五 戰鬪隊轉移上ノ要請ニ應ジ町村隊ヲ原則トシテ郡ノ區域ニ依リ郡聯合隊ヲ組織スルモノトス

町村内ノ職域隊ニシテ町村隊ニ所屬セシメ難キモノハ之ヲ郡聯合隊ニ所屬セシムルコトアルモノトス

郡聯合隊長ハ町村義勇隊ヲ統率スルニ足ル適格者ヲ本部長ニ於テ委嘱スルモノトス
備考 甲種少年農兵隊及學徒隊ニ就テハ別途考究ス

國民義勇隊ノ組織運營指導ニ關スル件 (昭和二〇、四、二七) 閣議決定

國民義勇隊ノ組織運營指導ニ關シテハ從前ノ閣議決定ニ依ルト共テ特ニ左ノ諸點ニ留意スルモノトス
一 國民義勇隊ノ組織運營ニ當リテハ國民ノ盛リ上ル熱意ヲ原動力トシ民意ノ結集トシテノ組織タラシメ其ノ民意ノ發動トシテノ活動タラシムル様指導育成スルヲ主眼トスルモノトス

二 國民義勇隊ハ隊員ヲシテ各々其ノ職任ヲ完遂セシメツツ夫々ノ郷土ヲ核心トシ生産防衛ノ一體的強化ニ任ズルモノトシ特ニ當面ノ任務ハ飽ク迄モ軍需、食糧ノ増産等戦力ノ充實ニ邁進スルコトヲ重視ス

狀勢急迫シ戰鬪隊ニ轉移シタル後ニ於テハ主トシテ作戰ノ要望スル生産、輸送、築城、防空、復舊、救護等兵站的業務ニ服スルヲ主眼トシ狀況ニ依リ戰鬪任務ニ服シ以テ郷土自衛ヲ完フスルモノトス
國民義勇隊ノ出動、訓練等ノ運營ハ右ノ趣旨ニ從ヒ實施スルモノトス

三 國民義勇隊ノ地域組織ニ當リテハ既存ノ職能組織ノ機能又ハ特質ヲ國民義勇隊ノ目的達成ノタメ最高度ニ發揮セシムル如ク市區町村ノ基盤組織ニ付地方ノ實情ニ應ジ特別ノ措置ヲ講ズルモノトス
四 國民義勇隊ノ組織、編成等ニ關シテハ豫メ其ノ戰鬪隊轉移ノ場合ノ事情ヲ篤ト考慮ニ入レ關係軍

機關ト密ニ連繫シテ措置スルコトトシ特ニ左ノ點ニ留意スルモノトス

(一) 國民義勇隊ノ指揮者其ノ他ノ幹部ハ當該國民義勇隊ガ戰鬪隊ニ轉移シタル場合原則トシテ其ノ儘戰鬪隊ノ指揮者其ノ他ノ幹部トナルベキモノニ付之ガ選任ニ當ツテハ眞ニ先頭ニ立ツテ隊員ヲ率キ之ヲシテ俱ニ欣然死地ニ就カシメ得ル與望ト統率力アル人物ヲ起用スルコト

(二) 右ノ場合地位、身分、職業、年齢ノ如何ニ拘ラズ廣ク各方面ニ人材ヲ求メ起用スルコトトシ尙在郷軍人ヨリ選任スル場合其ノ地位ハ必ズシモ軍人トシテノ階級ニ拘ラザルコト

(三) 國民義勇隊ニハ通常副隊長ヲ置キ適格者ヲ之ニ起用シ必要ニ應ジ隊長ニ代リテ隊ノ指揮ニ當ラシムルコト

指揮者其ノ他ノ幹部タルモノニ付テハ兵農工一體ノ趣旨ニ依ル教育訓練ノ方途ヲ講ズルモノトス

五 戰鬪隊轉移上ノ要請ニ應ジ町村隊ヲ原則トシテ郡ノ區域ニ依リ郡聯合隊ヲ組織スルモノトス

町村内ノ職域隊ニシテ町村隊ニ所屬セシメ難キモノハ之ヲ郡聯合隊ニ所屬セシムルコトアルモノトス

郡聯合隊長ハ町村義勇隊ヲ統率スルニ足ル適格者ヲ本部長ニ於テ委屬スルモノトス

備考 甲種少年農兵隊及學徒隊ニ就テハ別途考究ス

通信義勇隊司令部

通信義勇隊副司令

通信義勇隊副司令

通信義勇隊副司令

聯合義勇隊副隊

聯合義勇隊副隊本部

聯合義勇隊副隊長

聯合義勇隊副隊長

聯合義勇隊副隊長

義勇隊副隊長

義勇隊副隊長

義勇隊副隊長

義勇隊副隊長

義勇隊副隊長

義勇隊副隊長 若干 (一隊隊ニハ一名トス)

義勇隊副隊長 若干

義勇隊副隊長 若干 (一隊隊ニハ一名トス)

義勇隊副隊長 若干

義勇隊副隊長 若干 (一分隊ニハ一名トス)

義勇隊副隊長 若干

第六條 第二條及第三條ノ編制ニ前條職名及職員數ハ必要ニ應ジ陸軍大臣及海軍大臣協議シ上之ヲ奏ス、省略又ハ新設スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ上開ニ連スルモノトス

第七條 國民義勇隊副隊長ヲ編成スルニ方リテハ國民義勇隊ノ組織ヲ以テ之ニ充ツルヲ本則トシ其ノ要領ハ当該國民義勇隊副隊長ノ軍管區司令官船舶司令官、鎮守(警備) 行司令長官又ハ之ト同等以上ノ権アル其ノ課

屬スル其ノ他ノ長官ノ定ムル所ニ依ル

第六條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ認可ヲ承ケ之ヲ定ム但シ事急ヲ要スル場合ハ当該長官又ハ其ノ定ムル有ニ於テ之ヲ下令スルコトヲ得其ノ場合ニ在リテハ直ニ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ報告スルモノトス

第八條 義勇隊副司令ハ陸軍大臣ニ兼任シ却下部隊ヲ統率ス

第九條 義勇隊副司令ハ義勇隊副司令ニ兼任シ却下部隊ヲ統率ス

第十條 義勇隊副司令ニ兼任シ却下部隊ヲ統率ス

第十一條 第二條第一項ノ聯合義勇隊副隊長ハ当該所在地所管ノ地區司令官ニ、第三條第一項ノ各隊副司令(台通信局)又ハ之ニ準ズル隊副司令ニ或ルニ聯合義勇隊副隊長ハ義勇隊副司令ニ、上記以外ノ第三條第一項

ノ聯合義勇隊副隊長ハ所在地所管ノ地區司令官若ハ鎮守(警備)府司令官又ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ定ムル長官ニ就シ或ハ業務遂行上ノ所要ノ事項ニ因シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ各關係ノ長官ノ同意ヲ得テ聯合義勇隊副隊長ヲ統率ス

第十二條 義勇隊副隊長ハ義勇隊副隊長ヲ統率ス

第十三條 聯合義勇隊副隊長(義勇隊副隊長)副隊長ハ聯合義勇隊副隊長(義勇隊副隊長)隊長ヲ輔佐シ且ハ要ニ應ジ大々各隊長ノ命ヲ承ケ聯合義勇隊副隊長(義勇隊副隊長)隊長ヲ指揮ス

第十四條 聯合義勇隊副隊長(義勇隊副隊長)隊長ヲ承ケ各分組ノ業務ニ從事ス

第十五條 義勇隊副隊長(區隊)(分隊)長ハ義勇隊副隊長(區隊)(分隊)ヲ指揮ス

第十六條 義勇隊副隊長(區隊)(分隊)長ハ義勇隊副隊長(區隊)(分隊)長ヲ輔佐シ且ハ要ニ應ジ大々各隊長ノ命ヲ承ケ義勇隊副隊長(區隊)(分隊)ヲ指揮ス

九 内

隊ヲ指揮ス

第十七條 義勇隊副隊長(區隊)(分隊)長ハ大々各隊長ノ命ヲ承ケ各分組ノ業務ニ從事ス

第十八條 義勇隊副隊長以下ノ各隊長ノ指揮權屬區分ハ第三條ニ依リ共ニ定ムル國民義勇隊副隊長ノ編制ニ依リ共ニ編制ヲ変更セラルル場合ハ大々各ノ區分ニ應ジ変更セラルルモノトス

第十九條 一般軍隊ト國民義勇隊副隊長トノ指揮權屬區分ハ作戦ノ必要ニ應ジ之ガ所屬ノ長官ニ於テ適宜命令ヲ以テ之ヲ律スルコトヲ得

第二十條 國民義勇隊副隊長ノ敬禮ハ本條ニ定ムルモノノ外其ノ編屬又ハ指揮區分ニ從ヒ禮儀禮式令又ハ海軍禮式令ヲ準用ス

第二十一條 國民義勇隊副隊長ハ大々各編屬又ハ指揮區分ニ在ル一般軍人並ニ國民義勇隊副隊長ノ各長ニ對シ大々敬禮ヲ行フ

第二十二條 國民義勇隊副隊長ト指揮又ハ編屬關係ニ在ラサル一般軍人トノ間及國民義勇隊副隊長相互ノ間ニ在リテハ適宜敬禮ヲ行フヲ禮トス

三 國民義勇隊隊員ハ軍服及部隊ノ敬禮ヲ行フモ刀、小銃、槍等兵器ノ操作ニ依ル敬禮ヲ行ハザルヲ例トス

四 國民義勇隊隊員ハ通常喇叭ヲ吹奏セズ

五 國民義勇隊隊員ハ儀式ヲ行ハザルコトヲ得

第二十一條 國民義勇隊隊員ノ懲罰ハ本條ニ定ムルモノノ外其ノ隷屬又ハ指揮官分ニ從ヒ陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ヲ準用ス

一 罰 目

隊員ニ對スルモノ

免職、謹慎、誹責

隊員以外ノ國民義勇隊隊員ニ對スルモノ 謹慎、誹責、苦役

免職ハ國民義勇隊隊員ノ職員タル地位ヲ免ズルモノトス

謹慎ハ三十日以内トシ場所ヲ指定シテ居住謹慎セシムルモ必要アルト

キハ勤務ニ服セシムルモノトス

誹責ハ犯行ヲ糾シ將來ヲ戒飭スルモノトス

苦役ハ三十日以内トシ所要ノ苦役ニ服セシムルモノトス

二 罰 則

地區司令官又之ト同等以上ノ推アル陸軍又ハ海軍ノ長官並ニ鉄道（通信）義勇隊隊司令官又其ノ部下ノ聯合義勇隊隊長ハ其ノ部下ニ屬スル國民義勇隊隊員ニ對シ前條ニ規定スル一切ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス

前項ノ外中隊長又之ト同等以上ノ推アル有スル部隊長並ニ聯合義勇隊隊員長及義勇隊隊員（鉄道）通信）義勇隊隊司令官部下部隊ニ在リテハ義勇隊隊員（區）隊長）ハ其ノ部下ニ屬スル國民義勇隊隊員ニ對シ謹慎、誹責又苦役ヲ科スルノ權ヲ有ス

第二十二條 國民義勇隊隊員ノ勤務ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣將ニ之ヲ示ス場合ノ外單條トシテノ勤務ニ服スルト共ニ從前ノ職務ニ於ケル勤務ヲ繼續スルモノトス

第二十三條 前各條ノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣相互協同、上國民義勇隊隊員ノ為所要ノ規定ヲ定ムルコトヲ得

國民義勇隊員服裝及給與令

朕國民義勇戰闘隊員服裝及給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和二十年六月二十二日

内閣總理大臣
陸軍大臣
海軍大臣

勅令第三百八十六號

國民義勇戰闘隊員服裝及給與令

第一條 國民義勇戰闘隊員（以下戰闘隊員ト略称ス）ノ服裝ハ行動ニ容易ナル適宜ノ服裝（陸軍服制海軍服制其ノ他ノ勅令ニ依ル軍人軍屬ノ官等ノ級階階等ヲ示ス肩章、襟章、袖章、類ヲ附シタルモノヲ除ク）ニ隊員



做章ヲ用スルモノトス
戦闘隊員ニシテ職員タルモノハ前項ノ規定ニ依ルノ外職員既章ヲ装者ス
ルモノトス

隊員徽章及職員既章ノ別式等ハ第一表ニ依ル

第二條 戦闘隊員ニ対シテハ對敵行動ヲ取ル間其ノ他主務大臣（当該國民
敢勇戦闘隊ノ所属區分ニ從ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣トス以下之ニ同じ）
特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ糧食等ヲ給スルコトヲ
得

第三條 主務大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ戦闘隊
員ニ對シ第一表ノ範圍内ニ於テ手当全ヲ給スルコトヲ得

前項ノ手当全ハ本人ノ希望アルトキ其ノ他主務大臣ノ必要アリト認ムル
トキハ家族（之ニ準ズル者ヲ含ム）ニ對シ其ノ全部又ハ一部ノ拂渡ヲ為
スコトヲ得

第四條 公務ニ起因シ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル戦闘隊員ノ治療ニ要

スル諸費ハ官費ト為スコトヲ得

第五條 戦闘隊員公務ニ起因シ死亡シタル場合ニ於テハ官ニ於テ埋葬シメ
ハ其ノ遺骸、遺骨、遺物等ヲ遺族ニ引渡ス為ニ必要ナル諸費ハ官費ト為ス
コトヲ得

第六條 戦闘隊員公務ニ起因シ死亡シタルトキハ第一表ノ予慰金ヲ其ノ遺
族等ニ給スルコトヲ得

第七條 本令施行ニ因シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一表

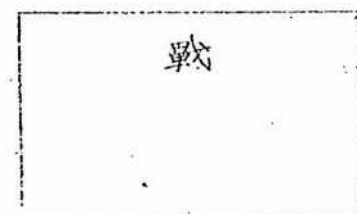
装着法	式例		地質	備考	装着法	式例		地質
	形状	寸法				形状	寸法	
左腕ニ装着ス	圓ノ如シ	中央ニ聯合隊長其ノ他職名ヲ略記ス 幅十煙	白色布	中央下部ニ氏名ヲ記スルコトヲ得	右胸部ニ縫着ス	圓ノ如シ	中央上部ニ、職ノ文字ヲ標示ス 縦六煙 横七煙	白色布

隊員徽章

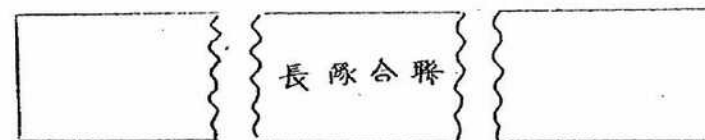
11

隊員徽章及隊員胸章圖

隊員徽章



隊員胸章



第二表

區	分	全	額
十	萬	百	圓
十	萬	百	圓
十	萬	百	圓

國民義勇戰鬥隊員給與等規則

陸軍
海軍
省令第五號

國民義勇隊隊員給與等規則左ノ通定ム

昭和二十年六月二十三日

陸軍大臣 阿南 惟幾
海軍大臣 米内 光政

國民義勇隊隊員給與等規則

第一條 勅令第三百八十六號ニ基ク國民義勇隊隊員ノ給與等ハ本令ニ依

ル
第二條 國民義勇隊隊員（以下隊員ト略ス）ノ糧食又ハ國民義勇
隊隊員（以下隊員ト略ス）ニ屬スル馬匹等ノ飼料ノ必需配給品其ノ
他ヲ自ラ調達ノ上給養又ハ給飼スルヲ本則トス

第三條

四六

官ヨリ戦闘隊員一控食ヲ給スルハ左ニ掲クル場合ニ於テ戦闘隊員
 自ラ糧食ヲ携行スル等ノ手段ナク莫ニ自力給養困難ナリト戦闘
 隊ノ直接ニ指揮スル區隊ニ依リ一隊部隊ノ長又ハ海軍艦船部隊ノ長一
 戦闘隊ノ長ヲ除キ以下部隊長ト略称スルニ於テ認メタルトキニ限ル
 一 作戦行動、警備等対策ノ為陸軍一隊部隊又ハ海軍艦船部隊（戦闘隊
 ヲ除キ以下部隊ト略称ス）ト行動ヲ共ニスルトキ
 二 生産、運輸、通信、警戒等ノ為現任地ヲ離レ部隊ノ施設（船舶ヲ含
 ム以下同シ）内スル官ノ指定スル場所ニ緊急勤務ヲ命セラレタルトキ
 三 非常ノ災害又ハ文藝社絶ノトキ
 四 公務ニ起因シ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ陸軍病院又ハ海軍病院其ノ
 他部隊ノ施設ニ收容中ノトキ
 五 拘禁、留置又ハ懲罰セラレ部隊ノ施設内ニ收容中ノトキ
 戦闘隊ニ属スル馬匹等ノ飼料ヲ官ヨリ給スル場合ハ前項ニ準ス
 第四條 前條ノ規定ニ依ル戦闘隊員ノ糧食又ハ戦闘隊ニ属スル馬匹等ノ飼
 料ハ第一表ヲ標準トシ部隊長現品ヲ交付スルモノトス但シ同條第四條及
 第五條ノ場合ニ在リテハ部隊ニ付定メラレタル所ニ依ル

第一ノ内

第五條

戦闘隊ニ召集セラレタルニ因リ収入ノ途ナキニ至リタルト英勇戦
 闘隊長（英勇戦闘隊長及之ト同等以上ノ推ヲ有スル國民義勇戦闘隊ノ各
 長ヲ謂ヒ以下戦闘隊長ト略称ス）ニ於テ認定シタルトキハ同隊長ノ申告
 ニ基キ戦闘隊員ニ對シ本人又ハ兵ノ家族ニ在ノ各派ニ依リキ当金ヲ給ス
 一 申告金ハ一家ノ正計ヲ維持スル者一名ニ限り之ヲ支給ス
 二 申告金額ハ従前ノ身金、地俸、収入等ヲ斟酌シ第二表ノ範圍内ニ於
 テ戦闘隊長之ヲ定ム
 三 召集中死セシタル者ニ對スルキ当金ハ其ノ月ノ召集日数十五日本滿
 ノ場合ニ在リテモ十五日以上ノ額ヲ支給ス
 四 戦闘隊統率令第二十一條ノ規定及陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ニ依リ
 處罰セラレタル場合ニ在リテモ申告金ハ之ヲ減額セス
 五 申告金ハ毎月末日之ヲ支給スルヲ例トス

是

前項ノ手当金ノ家族及ニ付テハ軍人軍屬ノ俸給給付等留守宅及要領ニ準
シ軍管區司令官ハ參謀總長及船舶司令官ヲ含ム以下同シ又ハ鎮守府司
令長官若ハ警備府司令長官ニ付テモ同ス
第六條 戦間隊員公務ニ基テシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ陸軍病院若ハ海
軍病院又ハ部隊ノ施設ニ於テ收療シタル場合ノ治療費ハ官費支弁トス
第七條 戦間隊員公務ニ基テシテ死亡シタル場合ノ埋葬費ハ第三表ヲ採準ト
シ遺骨遺物等ノ引渡ニ要スル諸費ハ其ノ実費ヲ文拂フモノトス
戦間隊員ニシテ公務ニ基テシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ收療中若キハ解
除セラレ帰郷ヤシキ難キモノ死セシタルトキノ埋葬諸費及遺骨遺物等ノ
引渡諸費ハ官費支弁トシ引渡陸軍病院若ハ海軍病院又ハ收療部隊ニ於テ
之ヲ文拂フモノトス
第八條 戦間隊員公務ニ基テシテ死亡シタルトキハ手慰金ヲ其ノ遺族ニ支給
ス其ノ定額ハ第三表ニ依ル
前項ノ手慰金ハ遺族ナキトキハ葬祭ヲ行フ縁政者ニ之ヲ支給スルコトヲ

一三ノ外

得

此ノ場合ニ在リテハ市(區ノ存スル地域ハ區)町村長又ハ之ニ準スル者
ノ證明ヲ要ス
第九條 手当金(家族没ノモノヲ除ク)又ハ手慰金ハ戦間隊長ニテ代理受領
スルモノトシ之ガ請求受領ノ手續支拂担任部隊等ハ軍管區司令官又ハ
鎮守府司令長官若ハ警備府司令長官ニテ定ムルモノトス
第十條 戦間隊員ニ要スル事務用品ハ自ラ調達スルモノトス但シ自ラ調達シ
得サルク共ニ他必要止ムヲ得サル場合ニシテ且却後ニ余給アルトキハ軍
管區司令官又ハ鎮守府司令長官若ハ警備府司令長官ノ定ムル所ニ依リ現
品ヲ交付スルコトヲ得
第十一條 第三條第一節乃至第三節ニ該当スル場合ニシテ戦間隊員自ラ宿舍
ヲ取得スルノ手帳ナシト部隊長ニ於テ認メタルトキニ限り官ニ於テ宿舍
ヲ借上クルコトヲ得
前項ノ借上契約ハ一版ノ例ニ依リ之ヲ借上料金ハ軍管區司令官又ハ鎮守

有司令長官若ハ警備府司令長官ノ定ムル部隊ニ於テ支拂フモノトス
 第十二條 第三條乃至前條ノ給與及経理ハ戰團隊ヲ現ニ指揮又ハ區処スル
 陸軍一級部隊又ハ海軍艦隊部隊ノ担任トス但シ第五條ノ予當全ハ同月中
 二陸軍ト海軍トニ召集セラレタルトキ又ハ召集中ニ陸軍又ハ海軍ニ指揮
 若ハ區処移ノ場合ハ其ノ月ノ召集末期ニ屬シタル陸軍一級部隊又ハ海
 軍艦隊部隊ノ担任トス
 第十三條 戰團隊ニハ前渡資金ヲ交付スルコトナシ
 第十四條 戰團隊ニ要スル經費(第二條第十條及第十一條ノ戰團隊自ラ調
 達又ハ取得ニ要スル經費ヲ除ク)ハ此時軍需費ノ支拂トシ科目區分ハ第
 四表ニ依ル
 第十五條 戰團隊ニ對スル給與ハ本令ニ定ムルモノノ外陸軍軍人又ハ海軍
 軍人ノ給與ニ因スル規定ハ之ヲ適用セザルモノトス
 第十六條 本令施行ノ細部及戰團隊内ノ給與並ニ経理實施要領ニ因シテハ
 軍管區司令官又ハ鎮守府司令長官若ハ警備府司令長官ノ定ムル所ニ依ル

一三ノ内

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一表 糧食及飼料官給標準

區	糧食				單位	日	量	摘	要
	主	味	醬	食					
飼料	食	油	立	五	若	千	ニ〇〇〇	總ニ共食日額量ノ八割以内トス	
	飼	類	瓦	五					
備考	一、本標準ハ酒造給給ノ情況ニ依リ品種ヲ異給スルコトヲ得 二、本標準ハ洞達給給ノ情況、勤勞ノ繁閑及性別等ニ依リ増減スルコトヲ得								

國民義勇戰鬥隊教令

第二表 千當金

月向召集日数	全額
十五日 未滿	五〇圓
十五日 以上	一〇〇圓

第三表 既算費及千當金

既算費	全額
千當金	四五圓
千當金	一五〇圓

第四表 科目区分表

事項	陸科		海科	
	陸	海	陸	海
現品交付ニ係ル授金及何種ノ物品ニ對シテ受入ル給費	給	授	授	給
車 當 金	給	給	給	給
治 療 費	給	給	給	給
理 療 費	給	給	給	給
遺骨運回ノ引取ニ要スル給費	給	給	給	給
千 當 金	給	給	給	給
現品交付ニ係ル事務用品ノ運送ニ要スル給費	給	給	給	給
官ニ於テ備上ル場合ノ給金格二科	給	給	給	給

十四、外

陸海軍 第一節

內地 朝鮮 台灣 (甲)

國民義務隊 隊令 別冊 通定

昭和二十年六月二十四日

陸軍大臣	阿南惟幾
海軍大臣	米内光政



國民義勇隊開隊敕令

綱 領

- 第一章 總 則
- 第二章 運 用
- 第三章 服 務
- 第四章 教 育

十口内

綱 領

- 一 皇國廢古ノ雜局ニ臨ミ國民榮リテ 天皇親幸ノ皇軍トナル是國民義勇隊開隊ノ本姿ナリ
- 二 天皇在シマシ神靈鎮リ給フ比ノ皇土ヲ自ラノ御土自ラノ職政ニ於テ其ノ身命ヲ捧ケテ守養ス是國民義勇隊開隊ノ伏命ナリ宜シク御党ノ職域相繼ヒ百難ヲ突破シ誓ツテ皇土復振ノ敵ヲ擊滅スヘシ
- 三 國民義勇隊開隊各隊長ノ統率、指揮ハ 天皇ノ大権ニ根據ス故ニ隊長ハ之ヲ承行ヲ謹嚴ナラシムルト共ニ其ノ榮譽アル地位ヲ感銘シ身ヲ持スルニ嚴、部下ヲ過スルニ親子ノ情ヲ以テシ率先陣頭ニ立テ隊員ヲ率キサルヘカラス
- 四 國民義勇隊開隊員ハ神勅ヲ畏ミ勅諭、勅語ヲ奉体シテ軍人精神ヲ養ヒ甲斐ニ胸ヲ燃ユルカ如キ開隊ヲ培ヒテ國難ヲ突破スルノ氣概ヲ振起スヘシ
- 五 國民義勇隊開隊ノ主ナル任務ハ皇土決戰ニ際シ戰闘ニ參加スルト共ニ



作戦軍ノ後方業務ヲ担任シ得ルヲ要スルニ在リ
道スルニ在リ

六 國民義勇隊團隊選用ノ要ハ御土、賦賦ニ於ケル能力ヲ結集シ重土決戦
場ニ遺憾ナク其ノ実力ヲ發揮セシムルニ在リ故ニ其ノ長タルモノハ常ニ
隊ノ実情ト隊員ト兼備トニ留意シ適切ナル任務ヲ與フルト共ニ隊員ヲ充
實ニ準備シ的確ナル指揮ヲ行ハサルヘカラス

七 國民義勇隊團隊ノ戦力標準ハ教育訓練ニ俟ツモノ極メテ多シ故ニ少
ヲ惜ミ工夫ヲ凝ラシ時ニ精神ヲ鍛練シ且幹部ノ徳操ヲ陶冶シ統御能力ヲ
向上スルヲ要ス

第一章 總則

第一條 國民義勇隊團隊命令ハ國民義勇隊團隊 以下團隊ノ運用ノ服務及教
育ニ関シ一概ニ準據スヘキ大綱ヲ定ム

本命令ニ定メサル事項ニシテ必要ナルモノハ與令範ヲ準用スルモノトス

第二條 軍管區司令官、鎮守府(警備府)司令官又ハ之ト同等以上ノ権

一五、外

ヲ有シ戰團隊ノ屬スル陸海軍部隊ノ長ハ本命令ニ基キ必要ノ事項ヲ定ム
ルコトヲ得

第三條 戰團隊ノ屬スル陸海軍部隊ノ長ハ其ノ育成強化ニ関シ責任スル
モノトス

第二章 運用

第四條 戰團隊ハ敵ノ上陸又ハ空襲部隊ノ降下ニ際シ一般軍隊ニ協力シ或
ハ独力ヲ以テ御土、戦域ヲ據リ又遊撃戰ヲ行ヒテ一般軍隊ノ作戦ヲ容易
ナラシム而シテ戰團隊直接戰術ヲ行フ場合ハ攻撃精神ヲ發揮シ戦ヒ肉弾
ヲ以テスルモ敵ノ撃滅スルノ概ナカルヘカラス

第五條 戰團隊ハ敵ノ深路、不逞ノ徒ノ騷擾等ニ備ヘテ一般軍隊ト協力シ
或ハ独力ヲ以テ重要ナル施設、資源ヲ保護シ又憲兵等ノ業務ヲ補助シテ
治安ヲ確保スルト共ニ警備ヲ要スル事態ノ發生ニ際シテハ機ヲ失ヤス通
切ナル處置ヲ執ラサルヘカラス

第六條 戰團隊情報連絡ノ勤務ニ任スル場合ハ一般軍隊ト連絡ヲ密ニシ共

五七

ノは要トスル情報ヲ機ヲ失セズ収集スルト共ニ迅速ナル傳達ヲ回ルヲ要
スニカク為戦闘隊ハ其ノ特色ヲ十分ニ發揮シ得ル如ク隊メ固着ナル情報且
組ヲ構成シ得達方必ヲ周到ニシ其ノ勤務ニ重然ナカラシムルヲ要ス

第七條 運輸、通信、補給等ノ業務ハ作戰ノ前後ヲ通シ戦闘隊ノ担任スヘキニ
至要ナル任務ニシテ其ノ成呆ハ五段一隊軍隊ノ作戰ニ影響スル所至メテ大
リ故ニ戦闘隊ハ天候、地形ノ困難及施設、資材ノ不備、不足等ハ勿論
敵ノ砲撃擧げ烈ヲ極ムルトモ急務ヲ克服シ各隊隊内相互ノ連絡ヲ密ニ
シ業務ノ円滑確實ヲ期スルヲ要ス

第八條 戦闘隊ノ担任スル工事ハ主トシテ採掘及飛行場、道路ノ構築、補
修並ニ運輸、通信及生産施設ノ維持、補修等ナリ而シテ工事ハ戦力發揮
ノ重要手段ナレハ有ユル努力ヲ盡シテ作戰ノ要求ヲ充足スヘシ

第九條 軍需品、食糧等ノ生産ハ内戦場化スル場合ト雖モ絶対ニミテ廢
棄セサルヘカラス故ニ敵ノ如何ナル妨害ヲ受クルトモ或ハ連續夜間生産
ニ從事スルコトアルモ戦闘隊員ハ有ユル困苦ヲ克服シテ敵域ニ奮闘シ所

一五、内

命ノ生産ヲ促進スヘシ

第十條 戦闘隊ノ宿營、給養、收養等ノ援助ニ從事スル場合ハ特ニ
一應隊及ノ情緒ニ甚キ一隊軍隊ノ戦力ノ維持増進ニ努力スルヲ要ス

第三章 隊務

第十一條 戦闘隊員 組織又ハ指揮關係ニ在ル一隊軍隊及戦闘隊ノ長ニ服
従スルハ如何ナル場合ヲ問ハズ嚴重ナルヘシ而シテ其ノ服従タルヲ畏ク
テ大膽ニ對シ奉ル絶對隨順ノ崇高ナル精神ヲ基トシ且クハ父母ヲ敬ヒ
兄弟ニ従フノ心ヲ以テ誠心誠意行ハサルヘカラス

第十二條 戦闘隊員ハ編成又ハ指揮關係ナキ一隊軍隊及戦闘隊ノ幹部ニ對
シテハ任務ノ遂行ニ至テハノキ範圍ニ於テ服従ノ道ヲ守ルベシ

第十三條 戦闘隊ノ服制ニ於テハ隊員心ヲ一ニシ協同團結ノ實ヲ著クルコ
ト極メテ緊要ナリ故ニ隊員ハ全隊戦捷ノ為欣然トシテ没我ノ精神ト隊保
衛隊ノ情緒トヲ發揮シ隊員相互ハ固ヨリ各隊互ニ相扶ケ戦力協心以テ戰
闘隊ノ眞價ヲ服若ニ現ササルヘカラス

第十四條 戰鬥隊ノ任務ヲ逆行スル場合ハ所要ノ勤務ヲ定メ服務ヲ確實ナ
ラシムルト共ニ特ニ自衛ノ万全ト軍紀ノ維持ニ遺憾ニカラシムルヲ要ス
而シテ戰鬥隊ノ勤務ハ形式ニ流ルルコトナク簡易ニシテ隊ノ実情ニ即シ
テ効ヲ得クルコトニ留意スルヲ要トス

第十五條 戰鬥隊員ハ常ニ精神ヲ振練シ簡素ニシテ規律アル戰時生活ニ徹
底シ職務活動ヲ刷新強固化シ以テ戦力ノ増強ニ勉ムルヲ要ス

第十六條 戰鬥隊員ハ私生活ヲ嚴守シ流言ニ惑ハス又敵ノ宣傳謀略ニ乘セラ
レナル如ク最ニ戒ムヘシ

第十七條 戰鬥隊員ハ敵ニ對シ善戰敢闘悔ナキ任務ノ完遂ニ邁進スヘキハ
勿論ナレト爲一敵手ニ陥リタル場合ニ於テハ皇軍ノ一員トシテ虜囚ノ辱
ヲ受ケス死シテ雅福ノ汚名ヲ残スコトナキ態度ヲ持スヘシ

第十八條 戰鬥隊員ハ戰鬥如何ニ熾烈トナルモ命ナクシテ任務逆行ノ戰場
ヲ厭場ヲ避ルルコトアルヘキラス然レ其ノ身重傷ヲ被ルトモ之カ爲戰意
ヲ沮喪ズルコトナキヲ要ス

第四章 教育

第十九條 幼齡、幼弱ノ奉養ハ戰鬥隊教育ノ大本トシテ以テ戰鬥隊ノ教育
ニ任ズル者ハ常ニ思フ此ニ致シ率先垂範以テ隊員ノ精神ヲ振練スルト共
ニ其ノ美談ニ勉メサルヘキラス

第二十條 戰鬥隊ノ教育訓練ハ幹即教育ヲ特ニ重視スルヲ要ス而シテ幹即
ハ戰鬥ノ実用ニ當ヘ困難ナル状況ニ於テモ隊員ヲ確實ニ掌握シ任務ノ遂
行ニ十分ナル指導能カヲ養フコト緊要ナリス下級幹部ノ素質ノ向上ニ就
テハ特ニ留意シ苟モ統率指揮ニ渾最ヲ缺キ威信ヲ失墜マシムルカ如キコ
トアルハカラス

第二十一條 訓練場ノ訓練ハ戦力發揮ノ爲極メテ重要ナリ
地的、時的的要度ニ是ク重要又緩急ヲ適切ニ定メ又戰鬥隊ノ特質ニ鑑
ミ早一ヲ旨トシ特ニ隊員ノ素質、特長等ニ適應セシメテ戰ヲ活用シ実施
スルヲ要ス

高教育訓練ニ方リテハ隊員ノ健康、環境ニ應ジテ衛生産兵ノ他ノ活動ト一體ヲラシムルヲ要ス

第二十二條 隊員ノ教育ハ其ノ時宜ト裝備トニ適應スル如ク創意ヲ加ヘ之ヲ訓練ニ方リテハ手段方法ニ工夫ヲ凝ラシ隊員ヲシテ常ニ自信ヲ以テ奮闘ニ得ルニ至ラシムルヲ要ス

第二十三條 隊員ノ氣力、体力ノ養成ハ隊員技術ト共ニ重要ナルヲ以テ隊員ヲホメテ之ヲ鍛煉ニ勉ムルヲ要ス女子隊員ニ於テ特ニ然リ

第二十四條 隊員ニハ尤幼婦女子ヲ含ミ又特技ヲ有スル者少クナルヲ以テ凡ニ其ノ特長ヲ遺憾ナク發揮マシメ時ニ青少年ノカラ活用シ又婦女子ノ活動ヲ助長スルヲ要ス

第二十五條 隊員ノ教育訓練ハ局内下令前ニ於テ勉メテ之ヲ完成シ局外下令後ニ於テハ互救ヘ且教ヒ以テ其ノ成果ヲ向上スルヲ要ス

第二十六條 隊員ノ教育訓練ハ自ラ實施スルノ外一般軍隊ニ任ス
尚帝國在野軍人会ノ行フ軍事訓練ノ活用ニモ勉ムルヲ要ス

國民義勇隊隊ノ禮式、懲罰、服裝ニ關スル說明

國民義勇隊 開隊ノ禮式、懲罰、服装ニ関スル説明

昭和二十年六月二十五日
陸軍省 兵務課

一 禮式ニ就テ

一 國民義勇隊開隊ハ 天皇御親幸ノ皇軍ナルヲ以テ軍秩維持上ニ於テ
 禮式ノ尊重ハ重要ニシテ陸軍禮式令、海軍禮式令ニ依リ礼式ヲ行フ
 ハキモノナルモ隊ノ特質、隊ノ実情特ニ隊員ニハ老幼婦女子ヲ念ミ服
 装亦一般軍人ノ如ク厳正ナラサル兵ヲ有スル外軍紀等ニ慣熟ノ程度亦
 低キ等ヲ考慮シ隷屬指揮關係ニ於テハ統率指揮ヲ最前ナラシムル為
 敬礼ヲ最正ナラシムルコトニセラレアルモ隷屬指揮關係ナキモノニア
 リテハ之ヲ緩和セラレアリ然レドモ隷屬關係ナキモノニアリテモ免メ
 テ敬礼ヲ行フベキハ礼式ノ本義ニ鑑ミ当然ナリ

二 國民義勇隊開隊ハ刀、小銃、槍等ノ兵器ノ操作ニ依ル敬礼ヲ行ハザ
 ルヲ例トシ又通常喇叭ヲ吹奏セザルコトハ一般ニ裝備區々ニシテ之ニ

令フ如ク嚴格ナル規定ヲ定ムルコトハ実情ニ即セサルノミナラズ之ク訓練ノ爲特ニ時間ヲ配当スルハ重要ヲ逸スル虞アルヲ以テ斯ク簡易化セラレタルモノナリ

ニ懲罰ニ就テ

一 軍ニ於ケル懲罰ハ主トシテ軍紀風紀ヲ振肅シ隊長ノ統率指揮ヲ容易ナラシムル目的ヲ有スルヲ以テ特ニ國民義勇隊隊員ノ幹部ハ如上ノ趣旨ヲ体シ恣意ニミテ行ハスルト共ニ一度之ヲ誤レハ爾後ノ統率ヲ困難ナラシムルヲ以テ慎重ナラシムル如ク指導セラレ度

二 國民義勇隊隊員ノ罰目ヲ免職、謹慎、誹責、苦役トセラレタルハ隊員ノ実情ニ於テ可能ナルモノニ定メラレタルモノナリ

三 地區司令官級以上ノ部隊長ト大以下ノ部隊長及義勇隊隊員等ニ區分シテ罰則ノ程度ヲ異ニスルハ懲罰ノ実効ヲ直切ナラシメントセラレタルモノナリ

鉄道(通信)司令及其ノ部下ノ義勇隊隊長ニ罰則附与ノ特例ヲ認メラレタ

ルハ現在ノ鉄道隊員トシテノ権限ニ一致セシメラレタルモノナリ

三、服装ニ就テ

一 國民義勇隊隊員ノ被服類ハ軍ニ於テ支給シ得サルヲ以テ各人ノ平常着用セル被服中戦用行動等ニ容易ナルモノヲ使用シ得ル如クセラレタリ

二 隊員徽章ハ國民義勇隊隊員タルコトヲ明示シ非戦用員ト區分セラレル唯一ノ標識ナルヲ以テ明瞭ナル標識ヲ附スルコトニ定メラレタリ尚氏名ヲ記スルハ認識業ノ意ヲ兼不致仰ラ容易ナラシムル爲ノモノナリ

三 隊員腕章ハ國民義勇隊隊員ノ職責タルコトヲ明示シ主トシテ隊長等ノ統率指揮ヲ容易ナラシムル趣旨ヲ以テ定メラレタルモノナリ

四 軍人軍属ノ階級等ヲ標識スルモノヲ看同スル時ハ官等ヲ設ケザル間國民義勇隊隊員ノ統率指揮ヲ破壞スルモノナルヲ以テ此等ハ一切除クコトトセラレタリ

六 其ノ他仕受トル 御印事項ハ地區司令官等ニ於テ所受ニ應ジ 函宣定ム
レハ可ナリ

四 非違、犯行者ノ行政處分ニ就テ

職階隊員ノ非違行為ニシテ軍法會議ニ於テ處断セラレサリシ者ノ中止受
ナルモノハ懲罰其ノ他ノ行政處分ヲ治添大ラシメ軍秩ノ維持ニ遺憾ナキ
ヲ期セラレ度

六六

一六ノ外

國民義勇戰鬪隊員ニ支給スル手當金ニ對シ

分類所得税免除ニ關スル件陸軍一般へ通牒

十八ノ外 中斷

陸軍第一卷 六九號

國民義務 陸軍員ニ支給スル手当金ニ対シ
分類所得税免除ニ因スル件陸軍一取、通牒

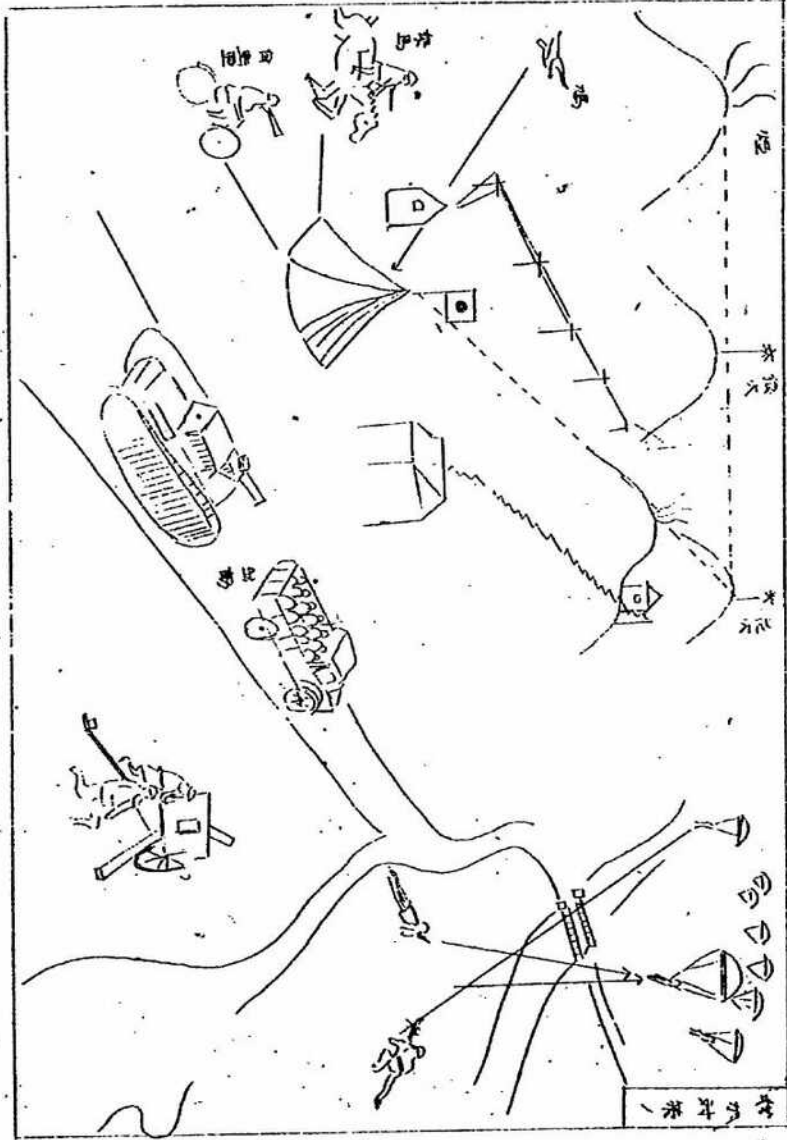
昭和二十五年六月二十三日

陸軍省副官 美山 英藏

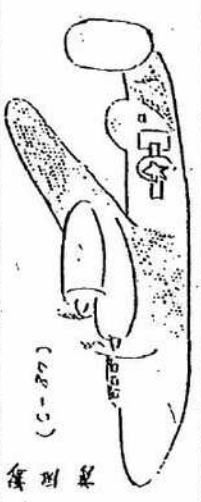
勅令第三百八十六條第三條（陸軍、海軍省令第五卷第五條）ニ依リ國民義
勇勤團隊員ニ支給スル手当金ニ対シテハ分類所得税ヲ課税セザルコトニ定
ムラレタルニ付依命通牒ス

六七

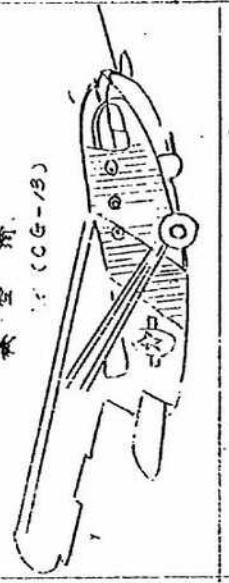




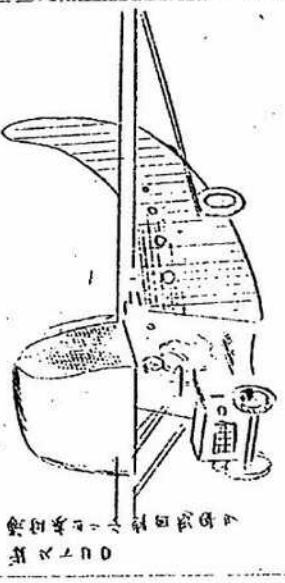
航空機の種類



練習機 (C-37)



練習機 (CG-13)

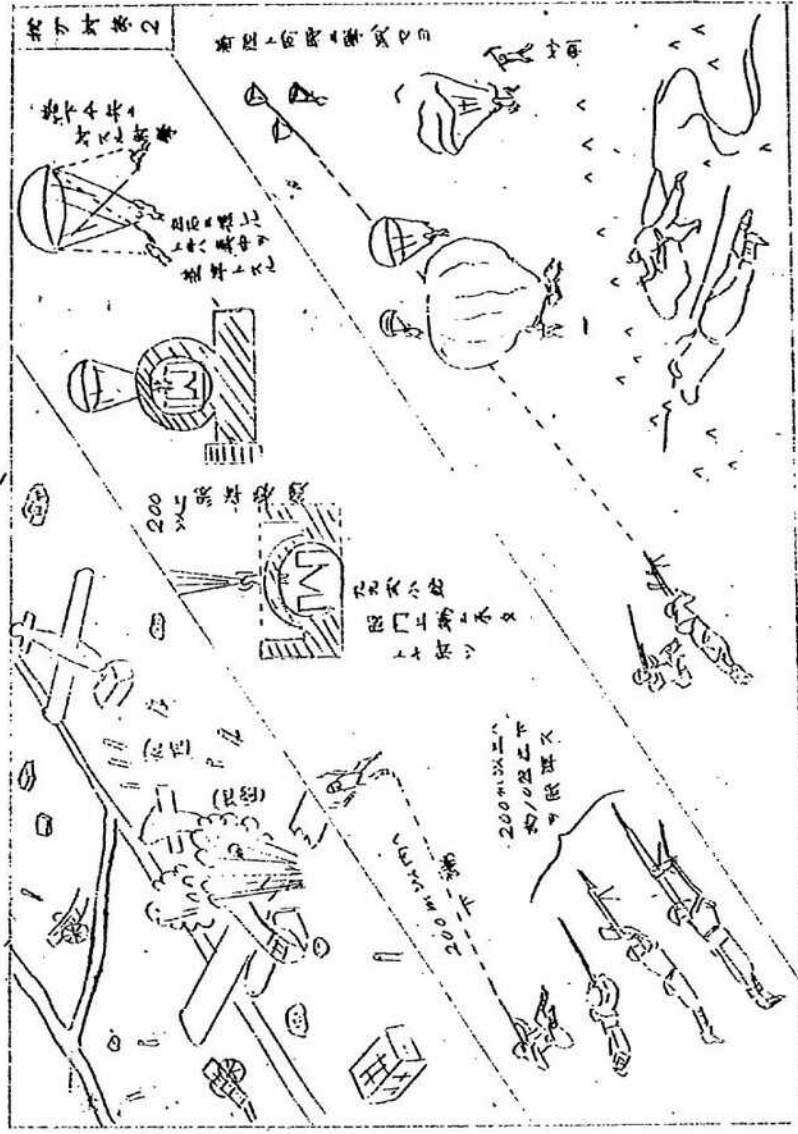


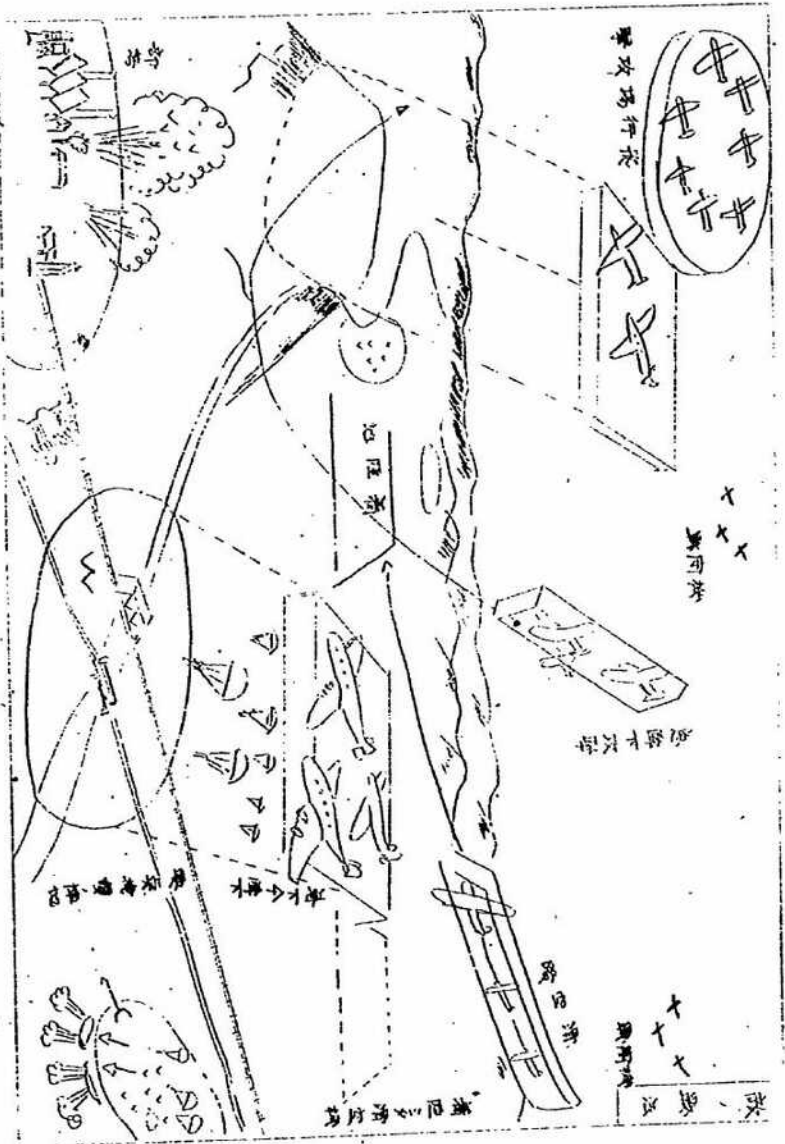
練習機 (CG-100)

航空機の種類

航空機の種類 (C-37, CG-13, CG-100)

航空機の種類 (C-37, CG-13, CG-100) ... (The text is partially obscured and difficult to read due to the image quality and orientation.)





素人天気判断

氣象ニ因スル地方的古諺一例

◎晴に因するもの
 漬物石の乾燥する時は晴
 × 焼は晴
 × 方蜘蛛が巣を作る時は晴
 × 方の虹は晴
 月に笠掛かり中に足ある時は晴
 鳩の底に火がけくときは晴
 雨降り續きで蛙が鳴けば天氣が上る
 猫が顔と洗ふ時耳の後迄こする時は晴
 朝起きて蜘蛛の巣が白く見ゆる時は晴
 煙の直上する時は積
 空が紺碧に白れば霜露を生じ天氣續く
 飯粒系碗につく時は晴

秋の夕焼縁とては
 春南風吹けば天氣續く
 ふくろが鳴けば晴と直る
 南の海鳴り晴と直る
 蜻蛉高く飛べば天氣
 白雲にて天の川消れば晴天氣續く
 × 鳩鳴いて人産む
 鳩が高所により啼く時は晴
 形雲は晴の兆
 風下の虹は晴
 馬の嘶く時は翌日は晴
 天の川の現れた時は天氣が續く
 四季共に朝日に白く雲行けば快晴

②西(曇又は風)に因するもの

漬物石の濕々時は雨

楚か鳴く時は雨

煙草が濕る時は雨

西方の星がすはたく時は曇

天井の煤が落ちれば雨

箱の履る時手ご類を履へば雨

星が光れば風

蝶々雲が出れば風

鐘の音近く聞ゆる時は雨

山並之見ゆる時は雨

高い山に雲がつかれば雨

東風が吹けば雨

夕方に深濕る時は雨

一九〇内

朝霧早く解けるときは雨

北風の尻は東風 東風の尻は雨

冬の夜過か身れば雨

雲が西に走れば雨

梅雨の夕焼雨を呼ぶ

太陽に雲と作れば雨近し

夏の夕焼川越すは

梅雨は雲が南に流れると晴れぬ

小蝶が道を走れば雨

北を中心とする方射状の雲が出ると

二三日中に暴風雨

候所の臭気強く身がたつ時は夜半より雨

花が水浴すれば雨

星が動けば霜が降る

潮紅は雨

鐘の音又は谷川の音近く聞ゆる時は雨

飯長茶碗につかず傾度にとれる時は雨

月に星掛り中には星なき時は雨

海鳴り高き時は雨又は風

鳥の水浴び雨

鳥の高舞、雁の高飛は雨

煙西へ飛けば雨

燕水面を飛ぶ時は雨

月並小身れば小身る程雨早し

アコ類近くに集る時は雨

夏寒く冬暖小身れば雨

壁内の夕、キ濕氣を合めば雨

冷蔵庫の外濕氣を現はす時は雨

比上りの景雨は大風の元と云ふ

朝曉けは風

雲切れくに早く進むは大風

上下に雲が汗さ交へば天氣が変る

雲高ければ雨近く低ければ雨近し

雨雲は雨の兆

半曇は雨の兆

蝶々雲は雨の兆

満月は雲を呼ぶ

春の雷寒が来る

朝の雷鳴は夕刻迄に雨と云ふ

風上の虹はもつれる(雨の兆)

流星多きは大雨

完

地方色

つばゆの水氷は雨の兆 (島根)
 小蛇の群がる時は雨の兆 (長見島)
 伏室に雲あり時は雨の兆 (五島)
 鶴の逆笛は雨 (全)
 温泉の温度が上れば二十時阿後に雨 (熊本)
 魚根下り蚊の集合は雨 (徳島)
 逆か丘を歩くと大水が出る (〃)
 夏の夕焼大水の元 (島根)
 山の草木がはざりくすれば雨 (安芸)
 朝西に雲いらす (鹿児島)
 満潮の雨は止まず (三重)
 南の積雲景風止し (〃)
 牛の景れり日は明日景風 (静岡)

舟蟲が陸に揚れば雨 (京都)
 雨蛇が鳴くと十時阿以内に雨 (宮崎)
 夏の西風は雨を呼ぶ (宮崎)
 旧二三日二四日降り出せば長し (〃)
 ミミズ鳴く時は天気続く (岐阜)
 鶏が早く集合へ入る時は必ず晴 (京都)
 冬期南風は晴 (福井)
 曉の西は天気良好となる (長崎)
 又方太鼓の音やえれば明日は晴 (兵庫)
 蛇が木に上ると雨が降る (福井)
 河の底鳴りする時は東南南風強くなる (〃)
 蛇が多く出れば近日中に雨 (福井)
 雨のきれ痛むと雨風になる (京都)
 丹波の山が西の海上に見えたら時は雨 (福井)

昭和二十年六月三十日

東京都民生局總務課振興係編纂